

ぶつけて1カ月で症状



ビール瓶で頭を殴られるなんて、滅多にない。が、ドアに頭をぶつけたとか、転んで頭にたんこぶなんて、よくある。頭痛もめまいもない。目も鼻も大丈夫なら、頭の検査をする必要はない。

が、年を取ると、ちょっと話は違ってくる。ワッシーは、2週間ほど前、シャッターにおでこをぶつけた。なんとなく、頭がすっきりしない。で、仕事の合間を見付け、頭をCT(コンピュータ断層撮影)で調べてみた。異常はなく、ホツとした。が、実は「慢性硬膜下血腫」という病気が心配だったのだ。

この病気は、ちょっと頭をぶつけただけでも起きる。打撲後すぐ

慢性硬膜下血腫

に検査をしても、わずかな出血は分らない。その出血が、脳を包んでいる硬膜と脳の表面の間にジワジワと続く。時間が経ち、やがて出血は血腫(血の塊)になり、脳を圧迫するようになる。

受傷1、2カ月後に、頭痛や手足の麻痺、認知症のような脳の状態が出てくるものだ。年を取ると不利だ。脳が萎縮し、硬膜と脳の表面に隙間がでやすい。頭をぶつけたひとの5人にひとりには血腫ができるかもしれない。が、簡単な手術で治ってしまう病気だ。安心してほしい。

というのに、ワッシーはなぜ、早々に頭のCT検査をしたのだろう

2週間後の検査で発見

か？ 実は、受傷後2週間もすれば、慢性硬膜下血腫の初期の出血を見付けることができるからだ。放っておけば血腫はどんどん大きくなり、手術が必要になる。早く見付けて治療すれば、出血は少しずつ吸収され、やがて血腫も消えるケースが少なくないのである。

頭をぶつけた。ちょっとへんだ、と思ったら、受傷後2週間頃に頭の検査を受けたらどうだろう。そうだ。いつ頭をぶつけたか忘れてしまつものだ。そんなひとこそ、カレンダーに受傷日の印をつけよう。

(石黒修三 いしぐろクリニック 脳神経外科専門医、金沢市在住)